



3月の園だより

令和6年 3月1日

目黒区立目黒本町保育園園長

沈丁花の花の香りがふわりと風によって漂い、春は近くにきていることが感じられます。ホールから5歳児クラスの卒園式で歌の練習が聞こえ、今年度もあと一か月と感慨深い保育士とは裏腹に子どもたちはまもなく訪れる進級や就学に期待し、毎日友達や保育士と一緒にのびのびと園生活を楽しんでいます。ある日、園庭のタイヤに座って泣いている子に保育士が話をしていました。保育士が笑顔で何かを言うと上目遣いに保育士を見ていたその子が顔を上げ涙を自分で拭き、再び遊び始めました。後で理由を聞くとゲームに負けたことが悔しかった子に次は負けないよと励ましていたとのことでした。一人ひとりの性格を理解し丁寧に向き合い関係を築いてきた保育が“もう一回やってみる”という意欲に繋がっていることを嬉しく思いました。

先月、全クラスの懇談会が終わりました。お忙しい中ご参加いただきありがとうございました。子どもたちが普段遊んでいる玩具に触れたり、ある日の子どもたちの姿を保育士が寸劇にして皆さんで関わりを考えたりとそれぞれのクラスが思考を凝らしていました。最終の4歳児クラスでは何分で小豆を箸で運び終えるかというゲームを行い、年長クラスの一年間で経験する目標に向かって協力し互いに応援し合う子どもたちの気持ちを体験して頂き、和やかな会となりました。これからもご家庭と保護者が共に子育てをしていけるように職員一同努めてまいります。一年間ありがとうございました。

<行事予定>

卒園式	5歳児
お別れ遠足	3・4・5歳児
ポニー教室	5歳児
お別れ会	全園児

中旬 身体計測・避難訓練

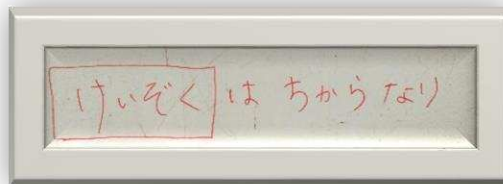
～移動日について～

荷物の入れ替えなど新クラスの準備をします。

新クラスの保育室で現担任が保育をします。

※ 詳細は各クラスに掲示します。
ご協力お願い致します。

夢中になって
取り組む姿



紐ゴマを回せるようになった姿を見ていた子が、少しずつ紐を巻くようになり、コマを回そうとしていました。「うまく巻けない」「何でまわらないの」と悔し涙を見せながらも、コツコツと努力していました。「頑張って練習すれば、きっとできるようになるよ。『継続は力なり』」担任が伝えたこの言葉は子どもたちの間で自分にエールを送る言葉になり練習を重ね、ひとり、また一人と回せるようになっていきます。

もうすぐ卒園・進級、成長した姿をお伝えします

ひよこ組(0歳児クラス)

小箱を積み上げるたびに保育士がいるほうを振り返り“見て”というように視線を送ってくる子がいました。「高くなってきたね」と微笑み返すと嬉しそうに笑い、また再び積み始めます。6つ、7つと小箱を積んでいき揺れて今にも倒れそうですが、たくさん積んでいることに満足そうな表情でまた振り返ります。「ゆらゆらしているね」と声をかけると今度は自分で積み上げた小箱を手で勢いよく倒してみても保育士と視線を合わせ「わぁ」と声を上げ喜んでいました。保育士と一緒に気持ちを合わせることが嬉しくて積み上げては崩すということを繰り返し楽しんでいきます。保育士と一緒に遊んでいく中で自分の気持ちが伝わる嬉しさを感じています。



りす組(1歳児クラス)

ペットボトルキャップで作った手作りおもちゃがあります。一人の子が遊んでいるとその姿を見てもうひとりが隣でペットボトルキャップを積み上げ始めました。2、3個積むと隣で遊んでいた友達が「すごーい」と言い同じように積み始めました。すると今度はもう一人が「〇〇ちゃんもすごい」と積んだキャップお互いに褒め合い、しばらくそれぞれ黙々と遊んでいました。一人はひとつでも多く積み上げようと夢中に、もう一人は家のイメージなのか高く積んだ周りを更にキャップで囲んでいます。出来上がるとお互いのものを見合っただけでも「すごーいすごーい」と笑いあっていました。友達への興味が広がり始め、同じ遊びをしようと傍に行きかかわろうとする姿が増えてきました。

うさぎ組(2歳児クラス)

園庭に出ると「先生おおかみになって」と“おおかみと7匹の子ヤギ”のストーリーで追いかっこが始まります。「キヤー」と声をあげながら逃げていきタイヤのお家に入って“ガチャガチャ”と鍵を閉める真似をしています。保育士が、「トントン、お母さんだよ。開けておくれ」と言うと、「いいよ」と子どもたちが鍵を開けてくれます。ドアが開いた瞬間、声色を変えて「私は、おおかみだ」と両手を広げ、家に入っていきと慌てて逃げ出していきます。捕まるまで走り逃げる子、タイヤの家に入ってドアの鍵を閉める子等、様々です。繰り返し遊んでいくと、子どもたちから「おおかみやりたい」と1人、2人と増え、全員がおおかみ役になりました。両手を広げて「ガオー、おおかみだぞ」となりきり保育士を追いかけています。簡単なお話のイメージをして遊んだり役割を変えたりして繰り返し、友達と一緒に遊ぶ楽しさが感じられるようになってきました。





こぐま組(3歳児クラス)

2人の子が色々な形の積み木を壁に沿わせながら積み上げていました。積み木が揺れたのを見て「キャー」と一人が声を上げると、もう一人が「しー、しずかに。たおれちゃうから」と話しています。その様子を見た周りの友達が「(積み木を)おさえてあげようか」と重ねた積み木を押さえたり隣に積み木を足していったりしながら遊びが続きます。どんどん高く積み上がり積み木が壊れてしまう事に困っていた子どもたちを見て保育士がそっと回りに別の積み木を置いてみました。すると「そうかー」という表情になりたくさんの積み木を持ってきては、崩れないように置き次第に高くなっていく様子を見て「すごーい」とみんなで大喜びです。遊びの中で友達と協力する楽しさを知った子どもたちは、やりたいことやイメージの違いでケンカになっても“やっぱり一緒に遊びたい”と感じています。まだまだ積み木遊びが続きます。

ぞう組(4歳児クラス)

一年を通し“いきのこりばんざい”というゲームを楽しんできました。最近では鬼役を2, 3人の子どもが交代で楽しんでいます。友達にタッチされたことに悔し涙を浮かべながらも、「僕、まだやりたかった。悔しかったけど次頑張る」と自分で気持ちを立て直したり、残っている友達に「〇〇ちゃん、がんばれ」と応援したり、「〇〇くんすごいね」と声をかける姿が増えてきました。先日、鬼と一対一になり「もう無理だよ」と諦めそうになっていた友達がいました。その姿を見て「頑張ってる」「ファイト」とみんなが応援をしています。勇気を出して通り抜けるために懸命に走り、挑戦していました。結果はタッチされてしまったのですが、「あー、今惜しかったじゃん」と応援席へ向かっていました。以前はタッチされたことを受け入れたくない姿もありましたが、大好きな遊びを通して、友達に応援してもらったり、励まし合ったりすることで少しずつルールを守りながら遊ぶ楽しさを感じています。



らいおん組(5歳児クラス)

先日、女の子たちが絵を描きながらその仲間の中で誰と誰がよくケンカをするかという内容の話を楽しそうにしているのが聞こえてきました。「〇〇ちゃんと〇〇ちゃんはよくケンカしているよね」「えー、でも私と〇〇ちゃんもよくケンカするよね」とけらけらと大笑いしていました。とても楽しそうな様子に気がついた子が「それならさ、僕と〇〇くんもよくケンカするよね」とケンカ自慢のようになっていて“フフフ”と保育士が近くで笑っていると「なんで笑っているの」と不思議そうに聞いてきました。「ケンカの話も楽しそうにしているから仲良しだなと思ってね」と伝えると「ケンカするほど仲がいい、だもんね」「そうだよ、ケンカはしてもいいんだよ。ねー」と団結して思いを熱く語っていました。もうすぐ卒園を迎える子どもたちにとって、楽しいことだけでなく友達とぶつかり合った経験も大きくなったと感じるのだなと思いました。言葉で互いの思いを伝え合える仲間となり友達とのかかわりに自信を持てるようになってきていることを嬉しく感じています。

